「英語講座を連載して」

金谷 健一（岡山大学）

私の授賞理由は「ソサイエティ誌の英語関連の連載の貢献」であるが，これは私が 2002 年から 2004 年にかけて連載した日本人の英語力向上のための講座「金谷健一のここが変だよ日本人の英語」および「続・金谷健一のここが変だよ日本人の英語」のことである (`http://www.suri.it.okayama-u.ac.jp/~kanatani/j/`にて閲覧可能）.

よい英文が書けるようになるには添削しかない．私自身も，かつては以前に滞在した米国 Maryland 大学の Azriel Roselfeld 教授に私の論文や本の原稿を見てもらった．始めは各ページが真っ赤になるほど直しが入ったが，数年後には 1 ページに 1, 2 個所にまで減った．何度も添削を受けると，どこが問題にされやすいかがわかってくる．この経験から，実際に添削例を示すのが多くの日本人に役立つと考えた．ところが思わぬ困難に直面した．国際会議の論文集の日本人の英文を取り上げようとすると，名前は出さないといっても使ってだめとストップがかかるのである（特に年長の連名者から）．英語にケチをつけられるのを極端に嫌ったり，誤りを指摘されても頑固に自説に固執する日本人が非常の多いことを実感した．例外的には年長者でも，見栄を捨てて貪欲に英語力向上を目指す方がいるが（そのような人を私は尊敬する），ほとんどは指摘を嫌い，教材が得られなくなり，講座の続行が不可能になった．

そこで話題を口頭英語に切り替えた．これも日本人が苦手とするところで，多くの人に参考になったのでは思う．しかし，音声的な内容を発音記号や文章で説明するのは限界がある．これを補足するために何回か講演を行った．どれだけ効果があったか自信がないが，関心を呼び起こしたという意味はあったと思う．これに関しても自説に固執する人がかなりいる．

現在は世界を舞台とする研究の進め方，特に情報発信のコツをテーマとして，ソサイエティ誌に新しい講座を連載中である．こちらも参考にして頂ければ幸いである．